

# Asian Cross Country Championships [アジアクロカン史]

## 第1回 1991年3月10日 福岡 (日本)

第1回大会は福岡国際クロカンと併催。10カ国が参加して開催された。男子シニアは、中国勢を抑えて下重庄三が初代王者に輝き、団体戦も制した。女子シニアは、ムン・ギョンエを筆頭に北朝鮮が1～3位を独占。日本人トップは4位の広瀬貴子で、日本は団体戦2位だった。男子ジュニアは、渡辺康幸が優勝。2位に川内勝弘、3位に川波貴臣と表彰台を独占し、団体戦も日本が制した。女子ジュニアは曲雲霞 (中国) が制し、中国勢が1、2位。日本勢は宮崎安澄が3位と健闘したが、団体戦は惜しくも中国に敗れ2位だった。

## 第2回 1993年4月11日 ジャカルタ (インドネシア)

14カ国が参加。男子シニアは、ミハド・サジャディ (イラン) が優勝。日本勢は内文夫が3位と健闘したが、他に2桁順位と振るわず、団体戦は4位に終わった。男子ジュニアは、ワントゥ・フィニッシュのイェン勢に大差をつけられ、樋口俊志の9位が日本人最高で、団体戦も4位に敗れた。女子は、シニア、ジュニアともに日本の独壇場。シニアは早狩実紀が2位に20秒差をつけてV、2位に塚本純子、3位に荻原佳代子が入り、団体戦でも圧勝した。ジュニアは、優勝した和田典子を筆頭に、1～4位を占め団体戦も制した。

## 第3回 1995年2月19日 千葉 (日本)

千葉国際クロカンと併催。海外の強豪選手がハイペースで牽引。男子シニアは、終盤まで健闘した宮島誠一がアジアクロカンのタイトルを得た。2位には横田芳則が入り、イランを抑えて、団体でも優勝した。男子ジュニアは、小島忠幸、木庭啓、吉田行宏と表彰台を独占し、団体戦でも圧勝した。女子は、この大会でも、ジュニア、シニアともに表彰台を独占。シニアは、八嶋あつみが優勝し、2位に志水見千子、3位に木村泰子。ジュニアは、高橋千恵美が優勝、2位に菅原美和、3位に上野理恵が入り、ともに団体戦も制した。

## 第4回 1997年2月16日 千葉 (日本)

千葉国際クロカンと併催。女子シニアは、前回の女子ジュニアの覇者・高橋千恵美が優勝。3位に尾崎佑知恵、4位に曾谷真理が入り、団体3連覇を果たした。女子ジュニアは、今回も表彰台を独占。松山久美子が優勝、小島江美子が2位、真鍋裕子が3位に入った。男子は、シニア、ジュニアともサウジアラビア勢との争いに。シニアはS・サードがV。日本勢は、3位の奈良修がトップで、団体戦は3位に終わった。男子ジュニアは、優勝こそM・サイドに譲ったが、2位に奥田真一郎、3位に若水嘉孝が入り、団体戦ではサウジアラビアを破って優勝を果たした。

## 第5回 男子 1999年4月8日 テヘラン (イラン)

### 女子 1999年12月13日 中国・香港

第5回大会は男子がイランで、女子は香港で開催された。男子シニアの優勝は地元のア・ザレカル (A・Zarekar)。藤本李也が2位、高須則吉が3位に入り、2大会ぶりに団体戦を制した。男子ジュニアは、野口英盛の2位が最高だったが、団体戦は優勝を果たした。女子はシニア、ジュニアとも日本勢が上位を独占し、団体戦も優勝。シニアは、野口みずぎが優勝し、2位には山中美和子が続いた。ジュニアも、吉田香織が優勝、丹羽りつ子が2位とワントゥ・フィニッシュを果たした。

## 第6回 2001年4月21日 カトマンズ (ネパール)

出場者数が少なく、男子ジュニア、女子シニア、女子ジュニアの3部門は、日本勢同士の優勝争いとなった。3部門とも団体戦でも圧勝を飾った。男子ジュニアは、上村智祐が圧勝。2位に増山和哉、3位に塩川雄也と続いた。女子シニアは、岩本靖代が制し、2位に吉松久恵、3位に中村里香が入った。女子ジュニアは、奥永美香が危なげなく勝利し、藤岡里奈、大渡奈子と続いた。男子シニアは、

イランのJ・ババハニが圧勝。日本勢は、2位に大津誠、5位に内田直将が入ったが、2人のみの参加のため、団体戦は順位なし。

## 第7回 2004年2月22日 プネー (インド)

日本代表は、男子シニアを除く3部門に派遣された。男子ジュニアは、北村聡と佐藤悠基が優勝争いを演じ、北村がV、佐藤が2位に入った。3位に上野裕一郎、4位に東野賢治と上位を独占した。女子シニアは、佐藤由美が後半独走して優勝。2位には鈴木亜弥子が入った。女子ジュニアは中国勢との争いに。優勝こそ逃したものの、2位に勝又美咲が入り、4～7位に日本勢が入った。団体戦では、派遣された3部門とも日本が制した。

## 第8回 2005年3月12日 貴陽 (中国)

全4部門で優勝を独占と、地元・中国の強さが光った大会となった。女子シニアでは、藤岡里奈が終盤まで粘り1位と3秒差の2位。女子ジュニアも、押山秋絵が1位と4秒差の2位と健闘した。男子ジュニアでは、齋藤祐司が3位に入った。前回大会まで日本勢は団体戦で、男子ジュニアが5連覇中、女子シニア、女子ジュニアがともに6連覇中だったが、この大会で連勝が途絶え、それぞれ2位に終わった。男子シニアは、中国勢がワントゥ・フィニッシュするも、団体戦の優勝はカタール。日本は加藤俊英の6位が最高で、団体戦は4位だった。

## 第9回 2007年3月10日 アンマン (ヨルダン)

中東勢の躍進が目立った大会となった。日本勢は、男女ともにシニアの部のみに参加した。男子は、カタールのA・H・アブドラが2位に1分以上の大差をつける圧勝。団体戦でもカタールがバーレーンを破り、優勝を果たした。日本勢は藤原正和の4位が最高で、藤森憲秀が9位と続き、団体戦では3位に食い込んだ。シニア女子は、優勝したM・ジャマルを筆頭にバーレーンが表彰台を独占し、団体戦も圧勝した。日本勢は4位に早狩実紀、5位に小竹恵理、8位に辰巳悦加が入り、団体戦は2位に入った。

## 第10回 2009年3月1日 マナマ (バーレーン)

地元・バーレーンが、男子シニアを除く3部門でワントゥ・フィニッシュと強さを見せた。日本勢も健闘。女子シニアは、3位に永田あや、4位に稲富友香、5位に重友紗佐が入り、団体戦ではバーレーンを破って3大会ぶりに優勝した。女子ジュニアも、3位・小田切亜希、4位・小原怜と3～6位を占め、団体戦2位。男子ジュニアも、3位・服部翔太、4位・押川裕貴と3～6位を日本勢が占め、団体戦は2位だった。男子シニアは、A・H・アブドラが連覇を果たすなどカタール勢が1～4位を独占。日本勢は北村聡の7位が最高で、団体戦は4位に終わった。

## 第11回 2012年3月24日 清鎮 (中国)

当初は2011年にネパールで開催される予定だったが、現地での新政府発足により大会への財政支援が見直され、開催が延期された。日本勢は男女ジュニアが活躍し、ともに団体戦で優勝。男子は、馬場翔大が優勝、山本雄大が2位、町澤大雅が3位、上村和生が4位と上位独占。女子も、上原美幸の優勝を筆頭に、2位に矢野菜理、3位に秋山桃子が続いた。シニアは、バーレーンが、男子1～5位、女子1～3位と上位を独占した。日本勢は、男子は6位の齋藤勇人が日本人トップで、団体戦は2位。女子は新谷仁美が4位と健闘も、団体は3位だった。